

住人十色

第 53 回

旭館の保存活用に奮闘 映画上映で町を元気にしたい

森 秀夫さん(66) 内子18第2



「黒部の太陽」上映会の準備が進んでいる旭館の前で

国の文化審議会が、登録有形文化財にするよう答申している旭館。大正15年に建てられた芝居小屋で、後に映画館として親しまれた建物です。

森秀夫さんは、24年に「旭館保存会」を立ち上げました。6月に45年ぶりとなる映画上映をするなど、同館の保存活用に奮闘しています。保存活動のきっかけは、町並保存センターが行った町並み見直し調査。当時建築の調査を担当した岡山理科大学江面嗣人教授に、建物の価値を伝えられました。当時は取り壊すことを考えていましたが、「残してほしい」という声も多く、保存を決めました。

現在、第2回目となる映画上映会「黒部の太陽」の準備中。映画について森さんは、「この映画が上映された昭和43年は、旭館が閉館した年。主演した石原裕次郎さんの遺言で、ずっとDVD化されなかった作品を、旭館の復活に合わせて上映したかった。最近はDVDも出ているが、ぜひ大きなスクリーンと35mmフィルムで見してほしい」と語ります。

今後は修理を進めながら、実験的に映画上映会を継続するそうです。森さんは、「地元の人々が気軽に楽しめる施設にしたい。新しい見どころとして、地域の活性化に貢献したい」と力を込めました。

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130



編集 幸記

▽国体に出場する人・目指す人を取材して、青春時代を思い出しました。懐かしいアルバムを開くと……。変わり果てた今の自分に少しがっかり。国体をきっかけに変わろうと、人一倍思ったのは私でした。(裕)

▽たくさんの人たちに取材した今回。各分野で大きな功績を残した人々から非常に勉強になる話を聞けました。取材した人たちのような成果を挙げることは難しいかもしれませんが、少しでも近づけたらいいなと感じました。(力)